

## 第 5 回講義

## ➤ 定数係数斉次線形微分方程式 :

一般的表現は  $a_n y^{(n)} + a_{n-1} y^{(n-1)} + \dots + a_1 y' + a_0 y = 0$ .

(ア)  $x$  の関数がない(定数係数), 定数項もない(斉次).

$y' = 0$  は斉次だが,  $y' = 1$  は非斉次なので注意すること.

(イ)  $y$  と  $y$  の微分同士の積がない(線形).

## ➤ 定数係数斉次線形微分方程式の基本解 :

$y = e^{\lambda_i x}$  は, 微分方程式  $a_n y^{(n)} + a_{n-1} y^{(n-1)} + \dots + a_1 y' + a_0 y = 0$  の解である. ただし,  $\lambda_i$  は特性方程式  $a_n \lambda^n + a_{n-1} \lambda^{n-1} + \dots + a_1 \lambda + a_0 = 0$  の根の 1 つである.

## ➤ ロンスキーマトリクスと解の独立性 :

微分方程式の解を  $y_1, y_2, \dots, y_n$  とするとき, 以下の行列を考える.

$$\text{ロンスキーマトリクス} : \mathbf{W} = \begin{pmatrix} y_1 & \cdots & y_n \\ y_1' & \ddots & y_n' \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ y_1^{(n-1)} & \cdots & y_n^{(n-1)} \end{pmatrix}$$

ロンスキーマトリクス  $\mathbf{W}$  の行列式が恒等的にゼロでなければ解は互いに線形独立.

## ➤ 定数係数斉次線形微分方程式の解法 :

Step1: 特性方程式を作る. 特性方程式は,  $y^{(n)}$  を  $\lambda^n$  に置き換えた  $\lambda$  の  $n$  次方程式.

Step2: 解く. 重根がなければ,  $n$  階微分方程式の特性方程式の根は  $n$  個.

Step3: 根を  $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n$  とするとき,  $y_1 = e^{\lambda_1 x}, y_2 = e^{\lambda_2 x}, \dots, y_n = e^{\lambda_n x}$  は微分方程式の解でこれらを基本解と呼ぶ.

Step4: 一般解は基本解の線形結合で表され,

$$y = C_1 e^{\lambda_1 x} + C_2 e^{\lambda_2 x} + \dots + C_n e^{\lambda_n x} \quad (C_1, C_2, \dots, C_n \text{ は定数})$$

以上.

Step3': 特性方程式に重根があるとき, 基本解は  $y_1 = e^{\lambda_1 x}, y_2 = x e^{\lambda_1 x}$  とするとよい. あとは同じ.

## ➤ 定数係数斉次線形微分方程式の解法の例 :

問題 :  $y'' - y' - 2y = 0$  を解きなさい.

Step1:  $\lambda^2 - 2\lambda - 2 = 0$

Step2: 因数分解して,  $(\lambda + 1)(\lambda - 2) = 0$ . 根は  $\lambda_1 = -1, \lambda_2 = 2$ .

Step3: 基本解は  $e^{-x}$  と  $e^{2x}$ .

Step4: 一般解は  $y = C_1 e^{-x} + C_2 e^{2x}$  ( $C_1, C_2$  は定数)

以上.